

その時 議会は

その2

悪夢の伊勢湾台風

1959（昭和34）年9月26日。伊勢湾を通過した台風15号は、満潮時と重なり、高潮と風雨とで、東海地方の人命と財産に大災害をもたらしました。

幸田町においても、瞬間最大風速58メートルを記録し、平均風速40メートルの風が長時間荒れ狂って、未だかつてない大被害を受けました。

幸田町の被害状況は、死者3名、負傷者79名、住家全壊97棟、半壊507棟、非住家倒壊1306棟、田畑冠水566アール、道路決壊5カ所、公共建物延べ324・1坪、橋梁流失3カ所。

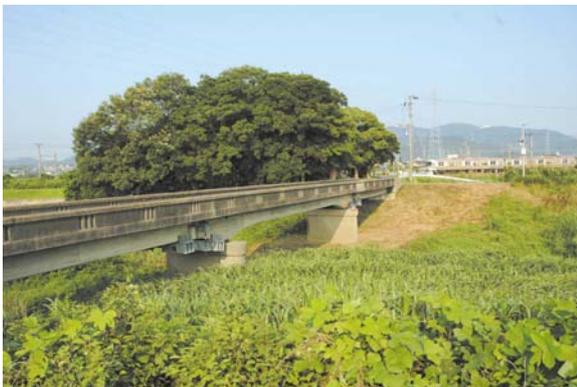


生々しい台風の爪あと（里地内）

風は塩分を含み農作物、果樹、立木は、甚大被害を受けました。特に山林では、台風後、松茸が全くでなくなりま



崩壊した観音橋（岩堀地内）



現在の観音橋

幸田100歳

台風の2日後には 議会も動く

翌々日の28日には、議会の全員協議会が開かれて、まず応急的な復旧対策を協議し、町を挙げて被災者の救済と復旧に取りかかりました。

各集落の人たちは、応急的な復旧対策に協力し合い、特に消防団の協力奉仕は目ざましいものでありました。

しかし、資材不足により台風被害の爪あとはいつまでも見られました。

県や日赤から、見舞金として48万6000円。また全国から救援物資が寄せられました。町としても被災者に見舞金を送ったり、仮設住宅を作ったりと救済と復旧に努力しました。議会には11月14日、被害者に対する町税の減免に関する条例の制定や、災害復旧費等の追加更正予算が提出され、可決しています。

(幸田町議会史より)



総出で復興作業（大草地区内）



家が崩れて呆然とする家族（菱池地区内）



坂崎地区内のような